

令和6年度 第1回佐倉市社会教育委員会議

会議要録

会議名	令和6年度 第1回佐倉市社会教育委員会議
日時	令和6年7月22日(月)
場所	夢咲くら館 地下1階 ゆめルーム
委員	佐藤 道広・岩崎 徹・森井 眞策・川崎 美代子・ 藤崎 言行・田中 均宜・渡邊 久子・佐藤 誠・一場 郁夫・ 白濱 敏則
事務局	佐倉市教育委員会教育長 圓城寺 一雄 教育委員会社会教育課 課長 舍人 樹央 照井 慎 魅力推進部文化課 課長 富田 健一郎
作成者	社会教育課：照井

- ・委員の定数11人に対して、出席は10人のため会議は成立。
- ・委員の互選により、藤崎委員を議長として選出。

○議長

ご指名でございますので、皆様のご協力を賜りながら、議事の進行に努めたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、会議に入りたいと思います。

○事務局

・資料に基づき、社会教育課関係の事業計画等及び令和6年度社会教育委員関係行事について社会教育課長が、文化課関係の事業計画等を文化課長が説明。

○議長

ただいま、事業計画等及び社会教育委員関係行事について、事務局から説明がありました。

このことについて、何か質問はありますか。

○委員

市制70周年記念事業として、様々な行事で高校生の出番を作っていただいている感謝しています。地域のお祭りなどでもお手伝いできる機会があると嬉しい。

以前勤務していた浦安高校では、浦安学に取り組んでいた。○○学というのは、小

中学校で取り組む自治体が多い中で、珍しい事例だと思う。浦安市と浦安高校の連携から生まれたもので、今の佐倉市と市内高校であればできるのではないかと。

幼小中の小さい頃から倫理観を身につけていないと、大きくなってから身につけるのは難しいのではないかと感じている。

佐倉学で中心となるのは、武家屋敷など佐倉地区が中心になるのかもしれないが、縄文時代などの文化財も佐倉市内には多く、時代的な年数で言うと、圧倒的に長いであろうこの時代に焦点を当ててもらい、佐倉西高校の敷地内にある古墳も見に来ていただければと思う。

○委員

当校は1小1中、西志津小から西志津中で人間関係に変化が少なく、関係性がある程度定まってしまっているせいか、人目をすごく気にしているように感じる。その殻を破ると、持っている力がすべて出し切れると思うが、その点で、地域の方と交流したりできる社会教育は大事だと思っており、地域のお祭りに声を掛けて頂けているので、積極的に子どもたちの参加を促していこうと考えている。

佐倉学に関しても、今の時代は、学んだことを自分がどのように表現していくか、考えて行動して成果を見出していく時代となっていると考えている。子どもたちに行動する機会を頂ければ、子どもたちも大きく変わっていくのではないかと感じている。

○委員

趣味でラジオを聞いていると、「今日は何の日」が流れている。佐倉版としてこれをカレンダー等で作成し、学校で紹介することで、佐倉学として面白い効果が発揮できるのではないかと考えた。

○委員

佐倉は食に対して関心が高い地域だと思う。

今協議会の中で気になっているのが、子どもたちが朝、ちゃんと食べて学校に行っているのか。高齢者も、試供品などを一緒に試しながら、楽しく食事をとる取り組みを行っている。元気の源は食からということで、取り組んでまいりたい。

○委員

特別支援学校での校長勤務経験があるが、学校だけでは、豊かな学びの実現は難しいので、コミュニティスクールの導入により、地域の方に学校に入ってきていただき、いろいろな学びを子どもたちがしている姿を見て、社会教育の重要性を感じていた。

大学生の教員採用にあたり、試験の前倒しとなり、教育実習を行う前に採用試験となってしまう。現場を見る前に試験となることに不安を抱える学生が多くなっている。

佐倉市の小中高校に大学生が赴いて、学びの場を提供いただけることができ、その結果、学校の教員の負担軽減につながるとなると嬉しい。

○委員

佐倉市の副読本「私たちの佐倉市」の活用について、3、4年生だけではもったいない。とても良い内容の副読本であるので、1年生から使うことにより、佐倉学の理解度が高まると思う。ぜひ、この良い副読本の活用をして欲しいし、親御さんにも一緒に見て欲しい。

○委員

八千代市には市立郷土博物館があり、出前講座などを行っていた。佐倉市では、夢咲くら館が、この郷土博物館的な役割を持つ施設になると思う。

佐倉は神社仏閣が非常に多くあるので、連携して、社宝・寺宝展など出来たらいいのではないかと考えている。

佐倉学に関連して、八千代市には八千代学というものはない。八千代市の約半分はもともと佐倉藩で、村上・米本・勝田の新川から東側は佐倉藩の管轄であった。八千代市と連携して、旧佐倉藩領までエリアを広げるのも面白いのではないかと考えている。

佐倉学の認知度が30%に満たないということであるが、群馬県の上毛カルタを見習って、佐倉カルタを作成し、大会を開くなどすることで、将来的には佐倉学も浸透するのではないかと考えている。

○委員

社会教育課が作成している佐倉学のホームページが充実している。学校教育と連携し、この素材を活用することにより、佐倉学の推進が図れるのではないかと考えている。

社会教育委員会議は年2回の開催で、なかなか皆さんとお話できる機会がないが、勤務先の酒々井町からの帰り道にあたるので、声を掛けていただければ、協力できることがあればお邪魔します。

酒々井町には、佐倉学のような豊富な素材がないので、プログラムで子どもたちに教育するしかできず、佐倉学には及ばないが、このようなノウハウであれば提供できると思う。

○委員

市民カレッジ24期生として学んだところであるが、人間一生教育だと考えているので、市民カレッジ卒業後も教育だと考えている。

社会教育委員2期目として、佐倉市の社会教育に力になりたいと考えている。

○委員

佐倉学に関して、浦安市と浦安高校の例が先ほどありましたが、佐倉市と例えば佐倉高校で連携している例などはありますか。

○事務局

歴史という面で言うと、佐倉高校の鹿山文庫講演会であったり、ハルマ和解の資料をお借りしてパネル展を行ったりをこれまで行ってまいりました。

また、市内高校と佐倉市の連携として、高校生が佐倉学を学んだ内容を活かして作品を作るなどの連携を行っております。

○委員

先ほど話した「今日は何の日」について補足すると、佐倉学の認知度が低いということで、幅広く皆さんに知ってもらうきっかけとなればと考えています。

日めくりで作るのは難しいことなので、こうほう佐倉のコラムとして、今月は何があったなど載せるなどでも良いと思います。

○委員

歴博と佐倉市の連携の状況はどのようになっているのか教えて欲しい。

○事務局

連携協定を締結しているため、資料の貸し借りや事業を展開するにあたっても連携している。デジタルアーカイブが佐倉市でも始まり、元々行っている歴博との連携ができればいいとは考えている。また、人事交流についても、佐倉市と歴博職員の交換というのが始まっている。

○議長

皆様方から様々なご意見を頂きましてありがとうございました。